

マイワシ資源増に対応した陸の処理能力向上ビジョン（案）

以下の水揚目標と目標達成に向けた陸上処理能力確保について、改訂予定のビジョンに基づき、関係者の意見を聞き、地域としての合意形成を図る。

（背景）

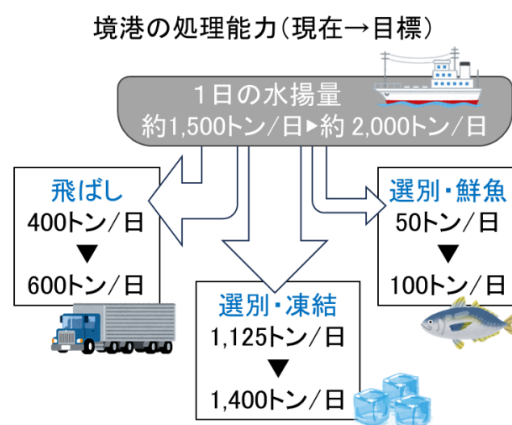
漁業法改正に伴う国の資源管理制度導入により、漁業者は魚種ごとに漁獲枠を与えられ漁獲量の制限を課せられている。一方、マイワシ資源は回復基調にあり、近年、陸上の処理能力に起因した漁獲枠の取り残しが生じている。これは境港地区経済にとって大きな問題で、関係者と陸上処理能力のあり方を議論する必要がある。

1 目的

資源回復傾向であるマイワシの水揚量アップが期待されている折、地元生産者の漁獲枠消化率向上及び県外大中型まき網船の水揚げを境漁港に取り込むことにより、地域水産加工業への原料供給のみならず、日本海側最大の水揚量を誇る境港の西日本エリアにおける浮魚類の供給基地としての責任を果たす。

2 将来予測に基づいた 10 年後(令和 16 年)の水揚げ目標

水産庁の資源管理状況を考慮して、浮魚で年間 20 万 t（マイワシ 15 万 t、その他の浮魚 5 万 t）の水揚げを目標とする。年間 20 万トンが水揚げされる場合、過去の実績を踏まえ、1 日当たり 2,000 トンの処理能力（下図参照）と境港地区全体で 78,000 トンの冷凍保管能力が必要。



境漁港の浮魚類処理能力

	令和 6 年現在	令和 7 年 9 月	令和 16 年 (目標)
陸の処理能力	1,575 トン/日	1,665 トン/日	2,100 トン/日
(内訳) 凍結	1,125 トン/日	1,215 トン/日	1,400 トン/日
飛ばし	400 トン/日	400 トン/日	600 トン/日
鮮魚等	50 トン/日	50 トン/日	100 トン/日
地区冷凍保管能力	65,800 トン	71,000 トン	78,000 トン
水揚量	10 万 t(見込み)	—	20 万 t

3 意見集約について

意見集約は専門部会である「共同利用冷凍・冷蔵施設ワーキンググループ」で議論する。なお、現在の委員は個別の共同利用冷蔵庫整備に関する議論をするために選任された委員である。しかし、今回は地域全体の冷凍保管能力に関する議論であるため、委員の一部を入れ替えて議論を進めることとして、委員の選考は会長一任とする。